

一般社団法人日本人間工学会第 67 回理事会 議事録

1. 開催日: 2023 年 10 月 2 日 (月) 17:30~20:00

2. 開催場所: Zoom による遠隔会議

3. 出席理事: <敬称略>

・理事会構成員(27 名・定足数 14 名以上)

(理事): 鳥居塚崇(理事長), 中西美和(副理事長), 青木宏文(広報), 石橋圭太(若手支援), 榎原毅(編集・国際・国際誌・将来構想), 笠松慶子(財務), 狩川大輔(安全), 河合隆史(財務), 鴻巣努(表彰), 境薫(若手支援), 佃五月(企業活動), 中川千鶴(総務), 能登裕子(学術), 松田文子(広報), 持丸正明(将来構想), 横井元治(総務)

[16 名]

(理事兼支部長): 小林大二(北海道・第 65 回大会), 三林洋介(関東), 斎藤真(東海), 小谷賢太郎(関西・国際), 石原茂和(中国・四国), 庄司卓郎(九州・沖縄)

[6 名]

[計: 22 名]

(欠席者): 青木洋貴(学術), 神田幸治(若手支援), 久保博子(学術), 高橋信(東北), 横山詔常(企業活動)

・オブザーバー: 井出有紀子(認定機構), 佐藤洋(JENC), 下村義弘(第 64 回大会), 八木佳子(認定機構), 吉武良治(表彰)

・監事: 赤松幹之, 大須賀美恵子

・事務局: 西原彩, 米倉裕美

※全員ネット会議出席者

4. 議事概要

定足数 14 名を超える 22 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後, 定款に従い理事長を議長として議事を進行した。

会議初めに, 鳥居塚理事長より 9 月 7 日から 8 日に開催された第 64 回大会長の下村先生にお礼が述べられた。

【審議事項】

(1) 第 1 号議案 2025 年第 66 回大会について(理事長)

2025 年の第 65 回大会開催地と大会長について, 鳥居塚理事長より, 立候補や推薦があれば知らせて欲しい旨お願いがあった。今年度末の 2024 年 3 月までには決定予定。

(2) 第 2 号議案 準専門家・アシスタント資格の改定について(認定機構)

八木機構長より, 機構・幹事会にて検討を行ってきた試験制度の改訂案とパブコメ結果について説明があり, 審議を行った。

大卒要件の不要な資格も重要で、今後も継続したいこと、現在のアシスタント資格は応募者が年 2~3 名しかいないので、より多くの方に取得を目指してもらえ魅力ある資格に変えたいことの説明があった。

新名称案「認定人間工学アドバイザー」について、専門家より上位資格という誤解を与えるのではないかという意見が複数あり、議論の上、機構で再度、他の名称案を含めて検討することとなった。準専門家の改訂案については承認された。アシスタントは日本独自の資格なので、専門家の IEA 認証については特に問題ないことを榎原理事に確認した。

【改定承認】認定人間工学準専門家 改定案(3点)

1. 就活に活用できるように応募要件を緩和し、大卒+専門教育 12 単位に変更する。
2. 応用分野に偏らないように、人間工学専門教育(授業科目)の分野を一部制限する。
3. 新たに資格更新のための再認定要件を追加する。

【継続審議】認定人間工学アシスタント 改定案(3点)

1. より実務経験者向けの資格として、資格名称を「認定人間工学アドバイザー」に変更する。
2. 応募要件を、専門教育 2 単位+業務歴 2 年以上に変更する。
3. 新たに資格更新のための再認定要件を追加する。

(3) 第 3 号議案 人間工学実践論文賞の新設について(表彰・編集)

吉武表彰委員長と榎原編集委員長より、実践論文を授与する賞を新設したい旨、資料を基に提案があった。論文賞は原著論文の受賞が多数で、実践論文が受賞することが難しいため、人間工学の実践に関わる優れた論文を表彰する賞を新設したい旨説明があり、賞の新設について承認された。

規程案の第 3 条(過去受賞)と第 6 条(受賞論文数)について、編集・表彰委員会で再度検討した上で、次回理事会またはメール審議にて最終版の規程を今年度内に決定する旨確認した。

(4) 第 4 号議案 若手支援にかかる会員資格の改正について(若手支援・総務)

石橋若手支援副委員長より、若手支援にかかる会員資格の改正(卒後 2 年間は準会員として会員を継続できる)については、司法書士に定款を変更せずに理事会承認で進めることも可能である旨確認したと説明があり、審議の上、定款変更をせずに理事会承認で進めることを決定した。若手支援・総務・事務局で相談の上、詳細を詰めて周知を進める。

休会制度の導入に必要な定款の修正は司法書士に依頼するため、大筋の要件を確認したい旨説明があり、審議を行った。休会中は会員資格を有する人が持つ権利は保留となる、という基本方針に基づいて各要件の案を作成し、再度審議を行う。休会制度は若手会員の救済措置としてスタートしていること、定款変更は最小限とし、理事会承認でできることは理事会で決定する方針を確認した。

(5) 第 5 号議案 退会届について(総務)

中川総務理事より、過去の理事会にて退会時に理由を確認してはという提案があり、他学会等を参考に退会届の案を作成した旨説明があり、承認された。準備でき次第、運用を開始する。

(6) その他

鳥居塚理事長より、ISO 関係の有料セミナーを開催するための準備を進めていること、人間工学百科

事典の出版打診が出版社よりあったことの報告があった。

【報告事項】

(1) 総務報告

- (1-1) 中川総務理事が、2023年定時社員総会議事録および第66回理事会議事録について報告した。
- (1-2) 新入会と退会
2023年8月末現在、会員数1,252名(+17名)、賛助会員21社22口。賛助会員を増やせるような方策を今後も継続的に取り組んでほしい旨、要望があった。
4年未納にて退会予定者7名について確認した。
- (1-3) メールによる審議および報告事項等の結果3件について報告した。
- (1-4) 協賛等の依頼27件について報告した。

(2) 財務報告 8月度収支計算書

笠松財務理事より、8月度収支計算書について概ね例年通りの旨報告があった。

(3) 第64回大会(2023年9月7~8日)開催報告

下村第64回大会長より大会開催協力へのお礼と開催報告があった。大会参加者は約320名、懇親会参加者約100名。学生を含む若手の参加者が多かった。

(4) 第65回大会(2024年6月)準備状況報告

小林第65回大会長より、開催日が2024年6月22日(土)~23日(日)に決定した旨案内があった。現地での対面開催として準備を進めている。12月に大会HPを公開し、参加・発表申込を開始する予定。
大須賀監事より、大会時に他学会とのジョイント企画を開催したいと考えており、今後第65回大会へご相談予定との話があった。

(5) 担当・委員会報告

(5-1) 広報委員会

青木委員長より人間工学グッドプラクティスデータベースの新規登録1件について報告があった。応募数が伸びないので対策を検討中で、チラシの配布や他団体とのコラボなど宣伝を進めている。

(5-2) 編集委員会

今回はなし。

(5-3) 国際協力委員会

小谷委員長より、第64回大会時に日韓シンポジウムの開催とIEA2024の広報を行った旨報告があった。10月18日~19日にIEA評議会がチリで開催される。

(5-4) ISO/TC159国内対策委員会

佐藤委員長より、9月20日に委員会を開催したこと、便覧がまもなくHPにて公開されること、ISO/TC159企画のメンテナンス(投票)を行っている等の報告があった。他報告内容は下記の通り。
ベルリンでISO/TC159総会があり参加した。経産省受託のサービスエルゴノミクスは1月に日本からNP提案予定、国内委員会を10月に開催予定。IEAとのコラボについては来年のチェジュでセッションを開催等予定している。特定のテーマを持った活動(ABW)についてはこれから検討予定。

(5-5) 表彰委員会

吉武委員長より、第64回大会時の優秀研究発表奨励賞の受賞者について報告があった。最優秀賞1名、優秀賞4名。表彰式は各支部大会で実施予定。

(5-6) 安全人間工学委員会

狩川委員長より、安全工学シンポジウム2023を幹事学会として6月22日、23日に開催した旨報告があった。参加登録者数が700名近くとなり盛会だった。安全人間工学委員会の委員長が今年度より狩川理事に交代した旨報告があった。

(5-7) 学術担当

能登担当理事より、学術担当を委員会化するための準備を進めたいと、報告があった。

(5-8) 人間工学専門家認定機構

八木機構長より、各支部大会にて機構PRを今年も実施したく準備を進めており、支部大会での発表についてご相談できる機構担当の方を設置していただきたいとお願いがあった。今後機構長より支部長へ個別に依頼予定。

9月2日に専門家認定試験を実施、受験者9名・合格者8名。10月30日にイベント企画「パラスポーツと義肢装具」を開催予定。

(5-9) 若手支援委員会

境副委員長より、第64回大会にて機構と合同で若手向けランチョンセミナーを開催し、登壇者と参加者より好評だった旨報告があった。12月関東支部大会でも企画を進めている。

(5-10) 企業活動推進委員会

佃委員長より、第64回大会にて「人間工学活動に役立つ事例紹介」というシンポジウムを実施した旨報告があった。10月6日に広島市とオンラインで開催の2023年度KANSEI“感性”サロンにてPRを実施する。

(5-11) 国際誌検討委員会

榎原委員長より、学会誌が来年60周年なのでこれまで検討してきたハイブリッドジャーナル化を進めたい旨、報告があった。

(5-12) 子どものICT活用委員会

今回はなし。

(5-13) 将来構想・普及委員会

今回はなし。

(5-14) PSE委員会

鳥居塚委員長より、IEAコンピテンシーの和訳がIEAプレスより出版されたので、会員の皆様へ今後広報していく旨、報告があった。

(5-15) 第9期選挙管理委員会

松田委員長より、選挙管理委員を各支部より選出し、10月代議員選挙に向け活動を開始したと報告があり、各支部長に2024年1月12日までに次期支部長を選出してほしい旨お願いがあった。これまでは圧着はがきにより選挙案内を送っていたが、大幅な製作・印刷費用値上がりがあり、検討の上、電子選挙のログイン情報案内はメール送付に変更する。

(6) 支部報告

(6-1) 北海道支部

小林支部長より、北海道支部大会は11月25日(土)に小樽商科大学 小樽キャンパスにて開催する旨、報告があった。

(6-2) 東北支部

狩川理事より、支部研究会の準備を進めている旨、報告があった。

(6-3) 関東支部

三林支部長より、関東支部大会は12月2日(土)に東京都立大学 松井岳巳大会長にて開催する旨説明があった。一般講演・企画セッションの申し込みを10月16日まで延長。

(6-4) 東海支部

斎藤支部長より、東海支部 2023 研究大会を11月11日(土)に椋山女学園大学 増田智恵大会長にて開催する旨説明があった。

(6-5) 関西支部

小谷支部長より、10月27日に支部見学会を開催すること、関西支部大会を12月9日(土)に兵庫県立大学姫路キャンパスにて開催する旨説明があった。

(6-6) 中国・四国支部

石原支部長より、中国・四国支部大会を12月9日(土)に広島国際大学東広島キャンパスにて開催する旨説明があった。

(6-7) 九州・沖縄支部

庄司支部長より、九州・沖縄支部大会を12月1日(金)に折尾まちづくり記念館 和田親宗大会長にて開催する旨説明があった。

(7) その他

今後の理事会日程について

鳥居塚理事長より、次回第68回理事会は12月頃、第69回理事会は2024年2月~3月頃に開催予定の旨、説明があった。

(6) 閉会

以上の議事を終え、20時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、代表理事、監事がこれに記名押印する。

2023年10月2日

代表理事

鳥居塚 崇^印

監事

赤松 幹之^印

監事

大須賀美恵子^印